

曾根沼におけるオオクチバスの抑制状況と在来魚介類の生息状況

田口貴史・三枝 仁・酒井明久

1. 目 的

オオクチバス、ブルーギル（以下、それぞれバス、ギル）駆除のモデル水域として選定された曾根沼（滋賀県、彦根市）では、平成15年から外来魚駆除を実施しており、近年ではバスの減少と在来魚介類（魚類とエビ類）の増加が顕著である。本年度も過年度に引き続き外来魚駆除と在来魚介類の生息状況調査を実施したのでその結果を報告する。

2. 方 法

平成30年度の曾根沼では、表1の調査（駆除）を実施した。バスの抑制（生息）状況については、これまで曾根沼で実施されてきた駆除手法のうち、長期的に捕獲効率（CPUE）を把握している春の電気ショッカーボートでの駆除（以下、EFB 春）とタモ網での仔稚魚すくいの結果から評価した。在来魚介類の生息状況については、小型定置網でのCPUEと捕獲された種数により評価した。

3. 結 果

EFB 春ではバスが57尾駆除されたが、これまで親魚の基準としてきた標準体長190mm以上の個体はおらず、バス親魚のCPUE（時間あたり捕獲尾数）は0となった（図1）。一方、仔稚魚すくいでは15,408尾が駆除され、そのCPUEは過去に比べて高い水準であった。

小型定置網、小型曳網での在来魚介類のCPUE（1日または1曳網あたりの捕獲尾数）と確認種数は、前者では増加が見られたものの、後者では前年から2種減となった（図2）。

曾根沼では本年度から、駆除を省力化しつつバスを抑制することを目指している。現状では、仔稚魚発生量の増加は見られたものの、バスの生息状況は低水準のままである。在来魚介類の生息状況については、増減が見られ

るが、平成25年以前に比べて高い状況を維持できている。今後も両者の動向を注視するとともに、在来魚介類が豊富な状況を維持できるよう、継続したバス駆除が望まれる。

表1 平成30年度に曾根沼で実施した調査（駆除）

調査（駆除）内容	調査（駆除）時期	調査（駆除）日数
電気ショッカーボート	4月中旬	2日
駆除手法	仔稚魚すくい	5月中旬から7月上旬
	小型三枚網	5月中旬から8月上旬
在来魚介類モニタリング手法	小型定置網	4月から9月
		各月2日

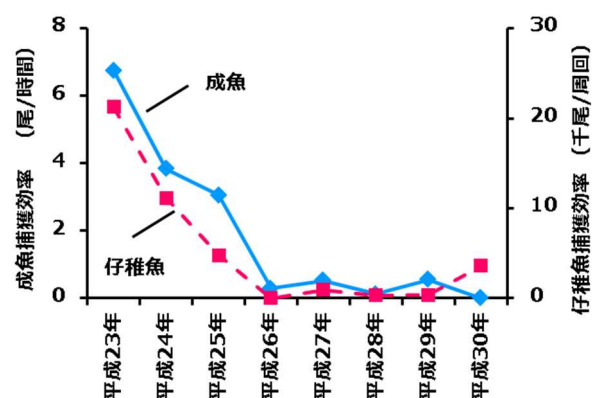


図1 バス成魚(EFB 春)と仔稚魚(仔稚魚すくい)の捕獲効率の経年変化

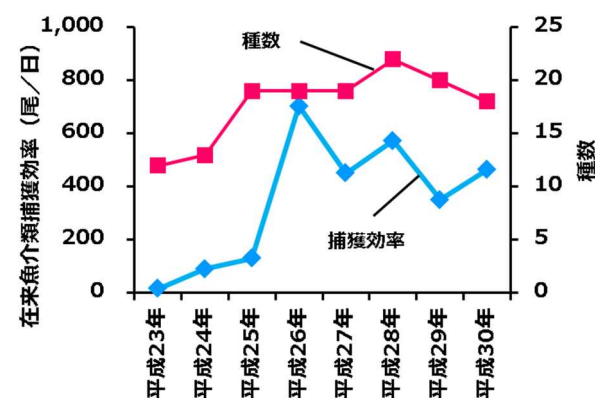


図2 小型定置網での在来魚介類の捕獲効率と捕獲種数の経年変化（4～9月）

*本報告は水産庁からの委託事業「効果的な外来魚抑制管理技術開発事業」の成果の一部である。